

平成 20 年 2 月 8 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長
 里 見 治
 (コード番号 6 4 6 0 東証第一部)
 問 合 せ 先 執 行 役 員
 秋 庭 孝 俊
 (電話番号 0 3-6 2 1 5-9 9 5 5)

平成 20 年 3 月期通期連結業績予想および期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 11 月 9 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想および期末配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、%）	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表値 (A)	540,000	20,000	20,000	1,000	3 円 97 銭
今回発表値 (B)	475,000	△6,000	△7,000	△26,000	△103 円 20 銭
増 減 額 (B-A)	△65,000	△26,000	△27,000	△27,000	△107 円 17 銭
増 減 率	△12.0%	-%	-%	-%	-%
（ご参考）前期実績	528,238	76,530	81,287	43,456	172 円 47 銭

《修正の理由》

主に遊技機事業において、パチスロ遊技機、パチンコ遊技機ともに販売台数が前回公表値を下回り、売上・利益ともに計画未達となることによるものです。遊技機市場においては 2004 年 7 月に施行された規則改正の影響を受け、パチンコホールの経営環境は厳しい状況が続いております。そうした環境下、当社子会社であるサミー株式会社は、市場から評価いただける差別化された主力製品の開発に注力しており、その過程で一部主力タイトルの供給が今期末もしくは来期にずれることから、パチスロ遊技機事業の年間販売台数計画を 52.0 万台から 40.8 万台へと修正いたします。また、パチンコ遊技機事業の年間販売台数計画を 18.0 万台から 13.4 万台へと修正いたします。

また、特別損益の項目として、当第 3 四半期において有価証券売却益 37 億円を計上した一方で、平成 19 年 11 月 9 日の前回業績予想修正公表時点では今期中に見込んでいた不動産売却益 55 億は来期にずれの見込みとなりました。また、当社子会社である株式会社セガにおける固定費圧縮を目的とした希望退職者募集に伴う特別退職金支出により 29 億円の特別損失計上を見込みます。

以上の結果、通期連結売上高 4,750 億円（前回発表値と比較して 650 億円の減少）、営業損失 60 億円（前回発表値は 200 億円の営業利益）、経常損失 70 億円（前回発表値は 200 億円の経常利益）、当期純損失 260 億円（前回発表値は 10 億円の当期純利益）を見込みます。

2. 平成20年3月期の期末配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金		
	中間期	期末	年間
前回予想 (平成19年11月9日発表)		30円	60円
今回修正予想		15円	45円
当期実績	30円		
前期実績 (平成19年3月期)	30円	30円	60円

《修正の理由》

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題として位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としております。

上述のとおり、平成20年3月期通期連結業績予想を修正し、当期は大幅な当期純損失を計上する見込みとなりました。つきましては、前回発表時において1株当たり期末配当金を30円とさせていただき予定でしたが、誠に遺憾ながら1株当たり期末配当金を15円とさせていただきたく存じます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、役職員一同、企業価値向上に努めてまいり所存です。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

3. 経営課題解決に向けた取り組みについて

上述の当社通期連結業績予想について、連結事業セグメント別の予想は下記のとおりです。

(単位：百万円)	平成19年3月期 通期実績	平成20年3月期 通期業績予想
売上高	528,238	475,000
遊技機事業	211,539	158,600
アミューズメント機器事業	75,454	72,800
アミューズメント施設事業	103,850	92,600
コンシューマ事業	119,593	142,000
その他事業	17,800	9,000
営業利益	76,530	△6,000
遊技機事業	71,102	11,000
アミューズメント機器事業	11,682	5,200
アミューズメント施設事業	132	△11,400
コンシューマ事業	1,748	△4,700
その他事業	△1,345	△100
消去等	(6,791)	(6,000)

このような経営実態において当社グループが認識する経営課題解決に向けた取り組みは以下のとおりです。

■遊技機事業におけるパチンコ遊技機事業強化

パチンコ遊技機事業はパチスロ遊技機事業と比較して規模が大きく、シェア拡大の余地も大きいことから、パチスロ遊技機事業に次いで収益の柱とすることが経営の重要課題として認識しております。前期下半期よりスタートした新たな開発体制をさらに強化し、確実にヒットを生み出し、シェア向上を実現し得る体制を整えてまいります。新開発体制下での主力タイトルは平成21年3月期上半期より供給できる見込みです。また、遊技機事業全体において環境の変化に対応するべく、事業の「選択と集中」を進め、経営効率を高めてまいります。

■アミューズメント施設事業における収益改善

アミューズメント施設事業においては、昨年来、収益性および将来性の低い約 110 店舗の撤退作業を進めており、うち約 80 店舗については今期中に売却または閉店を完了する見通しです。さらに本部機能の抜本的見直しを行い、効率的な事業運営を追求すると同時に、機器カテゴリ毎（ビデオゲーム、メダル機、プライズ機）の売上強化や店舗運営に対するサポート向上を目指します。

また、今後は出店・退店基準を明確化し、スクラップ・アンド・ビルドを戦略的に進めるとともに、新しい組織体制のもとで店舗運営の強化を図ることによって、売上・利益の増強を目指します。

■国内コンシューマ事業における収益改善

コンシューマ事業においては国内におけるコンシューマ事業の計画未達を踏まえ、プラットフォーム戦略の転換を図るとともに、ラインナップ戦略を大幅に見直します。さらには、ヒット作の創出と自社 IP の確立に向けて、プロデューサー制の導入や、社外の有力クリエイター確保などの手を打っており、来期以降、それらの成果の発揮を見込みます。

■海外アミューズメント機器事業における収益改善

海外アミューズメント機器事業において営業損失を計上する見込みです。アジアにおける機器販売事業については、日本からの直接販売を基本とする方針に転換し、その一環として Sega Amusements Singapore Pte. Ltd. の閉鎖を決定いたしました。その他のアジア諸地域・欧米についても効率化策を策定し、迅速に実行することにより、平成 21 年 3 月期以降の大幅な収益改善に努めます。

日本におけるアミューズメント市場規模が成熟していることから、海外市場における事業展開はセガの中長期的な成長の観点から極めて重要と考えております。これまでの業績不振の反省を踏まえ、北米事業を中心として、価格競争力の抜本的強化と市場ニーズに応じた商品供給の実現を目指します。

■株式会社セガにおける収益性の抜本的改善

持続的に利益を創出できる企業として株式会社セガを再生するためには、固定費の圧縮を含めてあらゆる手を講じることにより、コア事業の立て直しを果たすことが不可避と判断し、株式会社セガにおいて 400 名程度の希望退職者を募集いたします。これにより、平成 21 年 3 月期以降の人件費等のコスト削減を 35 億円程度見込みます。

※ 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上